

令和7年度【2025年度】

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 南砂第一保育園        |
| 施設所在地 | 江東区南砂4-4-1-102 |
| 法人名   | 江東区            |

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

- ・ 昨年は『自然』がテーマであった。自然の中で様々なことを感じ、気づき、探求心や意欲につながった姿があったので、感じることを大事にしてほしいとの思いから今年度のテーマは『五感』となる
- ・ 五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）を使って様々な感覚を感じて、「食育」「表現」「音楽」「体育」などの探求心へ広げていく

### 2. 活動スケジュール

計8回（6月1回・9月2回・12月3回・1月1回・2月1回）

6月：（4, 5歳合同）「視覚・嗅覚・味覚への刺激」

9月：（5歳）「フィンガーペイント」（4歳）「小麦粉粘土」

12月：（幼児・乳児）「すくわく演奏会～楽器に触れてみよう」

（5歳）「手作り楽器作り」

1月：（4歳）「手作り楽器作り」

2月：（全クラス）「リズムトレーニング」

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

**【素材や道具】**

・調味料（醤油・塩・スティックシュガー・酢・レモン汁・ケチャップ・だし汁・緑茶）・プラカップ8個・スプーン1個・トレイ（各自1枚）・小麦粉　・おけ　・ジップ付き袋　・塩・油　・ペットボトルに入れた水・ブルーシート　・机　・椅子・模造紙　・筆(太い・細い・平筆)　・T型筆洗　・新聞紙(ビニールシート)・指絵の具(赤・青・黄緑・黄・白)・ミュージックポンプ　・アゴゴウッド　・ドレミパイプ　・ハンドシンバル・マラカス(マラカス・たまごマラカス)　・ギロ・タンドラム・ウッドブロック・大太鼓・中太鼓・鉄琴・木琴・スチームタンドラム・トライアングル・鈴・カスタネット

**【環境設定】**

- ・少人数で取り組む
- ・表現しやすい環境設定（ホールやテラスなども利用した）
- ・自由に触れることができるような目新しい道具を準備（筆や楽器など）

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

6月：（4，5歳合同）「視覚・嗅覚・味覚への刺激」食育月間にちなんで、食べる意欲につなげるために、様々な調味料などを舐めて味覚五味（塩味・苦味・酸味・甘味・うま味）を感じて、言葉や表情、仕草などで表現してみる

9月：（5歳）「フィンガーペイント」全身と筆を使って自由に表現する。専用の絵の具と大きな模造紙を使って、絵の具の色の混ざり具合や感触を大いに味わいながら表現する。

（4歳）「小麦粉粘土」小麦粉と水を自分で調合しながら様々な段階に感触の違いや嗅覚・視覚を使って感じたことを表現する。後半は袋に詰めた小麦粉粘土を踏んで感触を楽しむ。

12月：「すくわく演奏会～楽器に触れてみよう」（幼児・乳児）職員が様々な楽器を使った演奏会を披露し、その後に触って、音を鳴らしてクラスごとにプチ発表会を行う。

（5歳）「手作り楽器作り」楽器に触れた経験から音への興味が広がり、自ら音を創作、創造する。素材の持つ形の違いや大きさなどから音の違いに気付く。

1月：（4歳）「手作り楽器作り」

2月：（全クラス）「リズムトレーニング」講師を招き、裸足の感覚を大いに味わいながら体を動かすことを楽しむ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・味覚の活動では視覚で調味料の名前が分かったが、そのもの自体を食する機会はなかなかなかったようで子どもたちはとても喜んでいて。味に対しての感想より、「おいしい」「すきじゃない」といった感想が多かった。うま味（出汁）では「たこ焼きのにおい」、酸味からは「海苔に合いそう」など味覚からイメージが広がっている様子が伺えた。
- ・絵の具を使った活動ではいつもと違う雰囲気期待している子が多かった。大きな模造紙を用意していたが、次第に腕や足に絵の具を塗り「あおむしになったみたい」と言い、あおむしに扮して床を這う姿もみられた。
- ・小麦粉粘土では「パンのにおいがする」と嗅覚を使った表現が多かった。水分量で触感が異なり、友だち同士で違いを共有して楽しんでいて。活動後、小麦粉粘土でパン作りを楽しみ、実際にトースターで作品を焼き、パンやごっこ遊びへと派生した。
- ・演奏会では普段触る機会が少ないキーボードなどの楽器に触れ、力加減と音の強弱を感覚に取り入れている姿も見られた。演奏会後は「自分たちで楽器を作りたい」との声が上がり、様々な素材（箱などの廃材も含む）を準備することで、音を鳴らしながら工夫して制作していた。使う素材によっての音の変化も感じていた。劇ごっこや行事の中で披露し、見てもらう喜びも感じていた様子。保護者会での披露もあり、すくわくプログラムのアピールにもつながった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・最初の活動の最後に五感について知らせた。（味覚は舌、嗅覚は鼻など）普段感じていることが五感を使って感じていることだと知り、こどもたちにとって大きな刺激になった様子。すくわくプログラムの活動の中で経験したことが、普段の保育の中で意識的に感覚を捉えている姿が垣間見られるようになった。例えば給食では「この前すくわくで食べた〇〇の味だね」、「今耳を使って聴いているだね」「足の裏でもやわらかいのがわかる」など体の部位で意識的に感じているようだった。また、様々な音色を知ることでも自分でも「音を作る」という創造へと移行していった。1年を通してすくわく活動が日々の保育へ派生していく姿が多く見られ、こどもたちの創造力、探求心に大きくつながっていることが分かった。